

ビキサロマー（キックリン）の臨床有用性とアドヒアランス

長崎腎病院

○塚原華乃子、岩井由紀子、久保純子、丸山祐子、矢野未来、江藤りか、宮崎健一、李嘉明、原田孝司、船越哲

【背景】

ビキサロマーはカルシウム非含有・非金属リン吸着剤として昨年発売された。既に発売となっていたセベラマー塩酸塩に比べて腹満・便秘副作用が軽度あり、炭酸ランタン塩酸塩と異なり重金属を含まないことから有効性及び安全性が期待される。

【目的】

セベラマー塩酸塩からビキサロマーに切り替えた際の、血清データや服用法など患者の受け入れの変化について検討する。

【対象・方法】

当院外来維持透析患者でセベラマーを内服中の患者 10 名を対象とし、ビキサロマーへ移行前後の便秘などの副作用と血清データまた各々のアドヒアランスについて検討した。

【結果】

セベラマーからビキサロマーに変更後、血清リン値は減少する傾向にあったが有意差はなかった。腹満・便秘も減少する傾向がみられた。ビキサロマーを選択した理由はデータ改善を期待する割合が高かった。

【考察】

ビキサロマーはセベラマーに比較して腹満便秘が少なくアドヒアランスは良好であった。